

優秀賞

私が見た福島

高石市立取石中学校 三年 吉村 よしむら 萌百子 ももこ

この夏、私はテニス部で全国中学生大会に出場することができ、福島へ行きました。

行く前から、福島ってどんなところだろう、どんな観光名所があるのかな、どんな食べ物がおいしいのかなと、インターネットで調べているときに、ふと目に入ってくるのが復興、放射能、原発、災害などの文字でした。さらに深く調べていくと、差別、偏見、風評被害などもどんどん出てきました。地震等で災害のあった所は全国にもたくさんあるけれど、福島はやはり原発問題が原因で、ここまでいろいろあるのかなと思いました。

福島県で作られたものだからという理由だけで食べられないとか、あぶないなどと買わなかったり、福島から食べ物売りに来た人に、「こんなもの売って！」などひどい言葉をなげかけたり。また、福

島の人があると、何かうつるんじゃないかと入場や入店を断られたり、移り住むことを拒否されたり、移住してきた先の学校で子どもがいじめられたりなどと、心が痛くなるような問題がたくさんあることを知りました。

「あ！」と思ったのが、今はあまりないけれど、その当時スーパーで、他の産地のものはほとんど売れているのに、福島産のものは山積みになって残っていたことを思い出していました。直接福島の人にひどいことをしていたのではなくても、実際自分も買わなかった事実がありました。それは、やはり怖かったからです。放射能で汚染されているんじゃないかと私も思ったからです。

確かに、やりすぎたような、怖さだけを強調した報道や、変に大丈夫、大丈夫と何か隠されたような情報などに、まどわされて、迷わされて、何が本当かわからなくなりました。国がウソをついていると言う人もいる、実際にあぶないんだと言う人もいる、でもその言葉が、行動が、福島の人々をどんどん追いつめている気がします。今現在、福島に住む人々は、災害から立ち直ろうと一生懸命復興に向けて努

力しているのに、それに輪をかけて差別や偏見の目とも闘わなくてはなりません。

私はこの夏、見てきました。実際の福島を見てきた私の感想は、山々がきれいで、すずしくて空気も澄んでいて、食べ物がおいしかったです。そして何より福島の人達は元気で、明るくて、とっても親切であたたかかったです。

ご当地グルメを食べられるように大会会場には、カツ、カレー焼そば、いもけんぴ、手作りジュースなどいろいろなお店が出店していました。どれもおいしく、お店の方はその素材のおいしさを一生懸命伝えてくれました。

おみやげもの屋さんなどを回った時も、その物の特徴などや由来を、ていねいにていねいに説明してください、私達の話聞いてくれたり、なんともあたたかい時間をもらいました。

タクシーの運転手さんはこう言っていました。会津はほとんど被害はなかったけれど、福島というだけで観光客が来てくれなくなって、食べものもあぶないと言って食べてくれない。自分達はここで暮らしているのに、とても残念で悲しかったこと。こう

やって大会のおかげで、皆が会津に来てくれてうれしいよと。

何が本場で、何がうそなのか本場のところは私もわからないけれど、私に見えた景色はとも良かったことは事実です。メディアやインターネットの情報だけで、福島や福島の人達のことを決めつけてしまうのではなく実際に見て、聞いて、感じてほしいと思いました。

たまたまだったけれど、この大会に出られたことよって福島の地に実際に降り立つことができて、そして福島について考えることができ、様々な思いに触れたことにまず感謝したいです。そして、こうして自分が感じたことを伝えることによって、少しでも福島のことを考えたり理解してもらえたら良いなと思います。

福島のことだけにかぎらず、何事も偏見でものを見たり判断したりせず、しっかりと自分で考えて動くことができるように、これからも努力しつづけたと思います。